

障政策を推進

- ③ 辺野古移設については再検証し、沖縄県民の理解を得られる道をゼロベースで見直す
- ④ 国際社会と連帯し、北朝鮮への圧力を強める。平和的解決に向け、外交力で北朝鮮の各・ミサイル放棄を訴え、拉致問題の解決に取り組む。
- ⑤ 共謀罪の廃止、水際対策など真に実効性のあるテロ対策の実施

社民党 <平和憲法は変えさせない>

○日本国憲法の「平和主義」「国民主権」「基本的人権の尊重」の三原則を遵守し、憲法を変えさせない。

安倍首相の常套手段！

演説で憲法改正については触れず！

10日、12日間の論戦がスタートしました。論戦では安倍首相が打ち出した憲法改正が大きな焦点となります。ところが、10日の安倍首相の第一声演説内容は震災復興25%、北朝鮮問題17%、経済政策14%、農業振興21%、消費税使途変更9%、野党批判14%でした。安倍首相が解散・総選挙の理由とした消費税使途変更には、わずか9%。どうも、ご自分で「まずかったのかな？触れない方がいいかな」と思ったのでしょうか。そして、最大の問題は憲法改正について、全く触れなかったことです。この10日の4カ所での演説で、憲法と自衛隊について言及したのが3カ所目の仙台駅前での演説だけでした。「東日本大震災、命がけでがんばってくれた自衛隊に対して、君たちは憲法違反だけど、しばらくは命をかける。こんなこと通はずがない」と語りました。自分で戦争法を強行し、自衛隊員に駆けつけ警護の任務を付与し、南スターンに「命がけで頑張れ」とした派兵した自分の行動への反省など全く見られません。

希望の党の小池百合子氏も、維新の党の松井一郎氏も、同様に第一声では憲法改正について触れていません。

安倍首相の常套手段は、選挙中は全く触れず、勝てば公約が支持されたとして、特定秘密保護法、戦争法、共謀罪法等の強行と同様に、悪法を強行することです。今回も同様に選挙中は憲法改正には触れず、隠して、選挙が終われば一気に改憲に走り出すことは間違いありません。

各地のとらきみ

新潟 5小選挙区で共闘

安法制の廃止と立憲主義の回復を求める新潟市民連合は7日、「市民と野党共闘」の5人の小選挙区候補と安法制廃止、安倍政権下での9条改憲阻止、原発再稼働阻止などの政策協定を長岡市で結びました。各野党の代表も決意表明しました。

市民連合の佐々木真共同代表は「5つの選挙区で擁立できたことは全国にも勇気を与えている」とあいさつしました。

1区・西村智奈美候補は「安倍1強政治を変えるため、一堂に会したたかう体制ができたことに感謝したい」3区・黒岩宇洋候補は「自民党憲法草案のような政治は許せない。退路を断って無所属としてたたかう」と言明しました。

また4区・菊田真紀子候補は「素晴らしい舞台に立たせてもらい、緊張している。権力に屈しない意思を示したい」、5区・大平悦子候補は「原発再稼働阻止、安倍政権打倒を掲げて頑張る」、6区・梅谷守候補は「安倍政治を止めるために力を合わせる」と力説しました。



自由党県連の森ゆう子代表は「野党共闘で共産党に立候補取り下げに尽力してもらった。市民とオール野党は一つを再び実現するため、なんとしても勝ち抜く」、共産党の川端幸雄書記長は「共闘が実って心から喜んでいる。全力で頑張る」、社民党の小山芳元共同代表、新社会党の小林義昭県本部長、緑の党新潟の中山均共同代表、連合新潟・牧野茂夫事務局長も決意を述べました。

愛知 市民連合@愛知が野党や市民団体が「共闘を求める市民の街宣」

名古屋駅前で7日、市民連合@愛知が野党や市民団体に呼びかけ、「共闘を求める市民の街宣」に取り組みました。約200人が集まり、「安倍政権を終わらせよう」「みんなのための政治を取り戻す」と書かれたボードを掲げ、駅前には熱気に包まれました。

市民連合の山口二郎・法政大学教授が、市民と野党の共闘について報告し、野党3党と市民連合が政策を一致してたたかうことを意思統一したと強調しました。「安倍政権の国家の私物化を許さず、リベラルを旗頭に憲法と平和、国民の命、尊厳を守るためにたたかおう」と訴えました。

立憲民主党の吉田統彦・衆院愛知1区候補、1区での立候補をとり下げた共産党の大野ひろみつ比例東海候補、社民党の平山良平氏があいさつ。大野候補は「市民と3野党が力を合わせて安倍政権を倒す決意。ともに市民の手に政治を取り戻そう」と述べました。

ママの会やエキタス東海、保育士や青年もマイクを握り、「市民と野党が力を合わせれば政治は変わる。安倍政治を終わらせよう」「市民とともに歩む政治家を国会へと送り込もう」と訴えました。

札幌 6日、戦争をさせない市民の風・北海道、道労連は札幌駅前アクション

「みんなのための政治を、取り戻す」と、戦争をさせない市民の風・北海道、北海道労働組合総連合は6日、札幌駅前アクションを繰り広げました。

強風ではためくのぼり、「安倍改憲にNO」の横断幕、真っ赤なTシャツ姿の参加者は「選挙に行って、安倍自公政治を退陣させよう」とアピール。写真を撮る人、立ち止まって耳を傾ける人が大勢いました。

「市民の風」の川原茂雄共同代表のスピーチに続いて。道労連の黒澤幸一議長らが次々マイクを握りました。「国会の状況は恥ずかしくて子どもに見せられません」というのは、ママの会@北海道の中上範子さん。「国会議員を選ぶことができない子どものため、私たちは選挙でしっかり選ばなければならない」と強調しました。

初めて参加した福祉職場で働く女性（27）は、「結婚できないと諦める若者がいっぱいいます。格差と貧困を広げてきた安倍政権は許せません」と憤りました。

神奈川 安倍政権の働き方改革に反対し、立憲野党を応援する緊急街宣

横浜市中区のJR桜木町駅前で9日、安倍政権の働き方改革に反対し、立憲野党を応援する緊急街宣が行われ、日本共産党、立憲民主党、社民党、民進党の代表らがスピーチしました。主催は、労働問題に取り組む県内の青年らでつくる「UNIEQ（ユニーク）」です。

スピーチしたのは、共産党の岡崎ゆたか候補、立憲民主党のしのはら豪候補、社民党の森英夫氏、民進党の真山勇一参院議員。ユニークメンバーの「安倍政権と今度こそさよならしよう」との呼びかけに、手をつなぎ「頑張ろう」と応じました。

岡崎氏は、働き方改革で生産性の向上をうたう安倍政権下で利益を上げたのは大企業や一部の資産家だけで、労働者は過労死、過労自殺に追い込まれていると指摘し、「クビを切って、人間を使いつぶして利益をあげる。何が生産性か。安倍政権の働き方改革は、働く人の命やお金、時間を奪う、許されない改革だ」と批判。「野党と市民で力を合わせ、必ず安倍政権を倒す」と訴えました。

しのはら氏は、「力を合わせれば、政治は変えられる。地元から安倍政権を倒そう」と訴え、森氏は「野党共闘で安倍改憲を許さない」と強調しました。